

(様式2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名	地すべり対策事業		路河川名等	越道区域		
事業毎の通番	1	市町村名	長野市	越道(こえどう)		
事業概要	事業目的	平成16年10月の台風22号により同地区内で地すべり災害を引き起こし、3世帯6人が自主避難している。また平成26年11月の神城断層地震による影響で変状が拡大しており、今後降雨等による地すべりの活発化が懸念される。ブロックの頭部及び末端に県道、市道があり、地下水位が上昇すると継続的に滑動すると見られ、今後の降雨において滑動が活発化する恐れがあることから、早急に対策工を実施し地すべりを安定させる必要がある。				
	しあわせ信州創造プランにおける位置付け	5-2 快適で暮らしやすいまちづくり(地すべり災害を防ぐ施設の整備)	事業実施の根拠法令等	地すべり等防止法		
	関連する事業、計画等	なし				
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家85戸、主要地方道信濃信州新線、長野市道220号線				
	着手年度	平成28年度	事業期間	8年間		
	完成年度(見込み)	平成35年度	費用対効果	10.83		
	全体事業内容 (主な工種)	横ボーリング工 L=6,800m	水路工 L=500m	事業費 (千円)	財源内訳(千円)	
		アンカー工 N=60本				国庫
	年度事業内容 (主な工種)	地質調査 1式	10,000	5,000	4,500	500
	事業効果	直接的効果 (定量的・定性的)	人家、道路等の保全			
間接的効果 (定量的・定性的)		災害に強い地域づくり				
評価の視点	必要性	人家戸数: 保全対象人家85戸 公共施設数: 主要地方道信濃信州新線、長野市道220号線、木村公民館 要配慮者利用施設の有無: 無し 河川への土砂流量: 20,000m3	評価	B		
	重要性	過去の災害履歴: H21年8月6~8日の豪雨により人家裏で崩落があった 交通遮断による地域経済への影響: 主要地方道信濃信州新線 長野市道220号線 地域防災計画上の位置づけ: 既指定の地すべり防止区であり、地域防災計画に記載されている	評価	A		
	効率性	費用便益比(B/C): B/C=10.83 事業期間: 8年間 工法等の比較検討: 現在のところ比較検討は行っていない	評価	B		
	緊急性	地すべり滑動度: 2~3mm/月 程度の動きがある 地すべり変状: 過去1年以内に新たな滑落崖が形成され人家に影響が出ている 下流の堰堤等の整備状況: 堰堤はない	評価	A		
	計画熟度	事業情報の共有: 関係者に対し事業説明会を実施し周知している 地域の取り組み: 地元要望があり、合同で現地調査を実施している 地域の合意形成: 整備手法に対し地域の合意形成が図られている 住民との協働: 住民主導型避難体制づくりに取り組んでいる	評価	A		
	部意見	地震により発生した地すべりが、今後の降雨や融雪等により拡大する恐れがあり、緊急に整備する必要がある。	行政改革課意見	今後の降雨等により活動が活発化する恐れがあり、保全対象に人家、県道、市道があることから、重要性が高く、緊急性も認められる。	評価結果 ○	総合評価 A

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)

位置図

長野市 越道

①B1ブロック全景

②頭部滑落崖の亀裂沈下状況

【整備の必要性がわかる状況写真等】

③擁壁の亀裂変状

④融雪に伴う滑動

⑤電柱の傾倒

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景

越道地区は犀川支流の越道沢上流左岸側(位置図参照)に西側に向かい緩く傾斜する斜面が山腹から河床まで続く。古い街道筋で、比較的大きな集落が存在する。平成16年10月の台風22号により同地区内で地すべり災害を引き起こし、3世帯6人が避難した。平成26年11月の神城断層地震による影響で変状が拡大しており、今後降雨等による地すべりの活発化が懸念されるため、早急に対策工を実施する必要がある。

②地域からの要望経緯及び地域の関わり

地震災害発生直後から地域より要望がある。

③事業説明等の経緯

事業について関係者へ説明済み地元からの要望が強い。

④他事業・プロジェクトとの整合、関連

無し

⑤自然環境・生活環境への影響と配慮

横ボーリング孔口等、地表に露出するものは、ふとんかごなど自然の資材を用いた施工とし、環境や景観に馴染むよう配慮する。

⑥地域活性化への影響と配慮

本事業により地すべり災害の防止が図られ、災害に強い地域づくりが推進される。

⑦その他

事業代表地点の緯度経度	北緯:N	36.596988
	東経:E	137.996197